カチャラ、ベラ、コーティ、タラーン各村自治会と合同祝賀会

工事の主力は護岸へ

秋冬の工事は、大物だった取水堰の仮工事が終わり、夏の洪水に備えて護岸に主力が移りました。しかし、小さな工事はたくさん残っています。

- 主幹水路；ふとん籠上段施工、柳枝工らの植樹、カチャラ分水路Ⅰ・Ⅱの整備、交通路敷設など
- 沈砂池；上段の施工、植樹、コーティ分水路の整備、
- 護岸は 1.5 ㎞地点の洪水進入路を閉塞、しめきり堤までの交通路敷設と護岸を、同時に行う。樹林帯や遊水地の場所を 3 月までに決定。
- 石材輸送；護岸用の巨礫、ミラーン堰の浚渫

大ざっぱに以上ですが、2 ヵ月では護岸は完成しません。増水期のピーク（6 月～7 月）前には主な場所を選んで済ませておくべきです。とりあえず 2017 年の夏を乗り切るべく備えたいと思います。

試験送水の翌日、4 ヵ村自治会の代表が集まり、ささやかな祝賀会がもたれました。パキスタンからの大量難民送還で人口が増え、途方に暮れていたところだったそうです。ＰＭＳとしては、現在同 4 ヵ村で雇用している約 150 名（作業員と警備員）を減らさず、なるべく重機・ダンプを節約する方針を採っています。時間をかけてよい工事は、できるだけ人海戦術で臨む方針ですので、その旨ご理解願います。

訓練所建設、排水路も着実に進められています。

2017 年 1 月 31 日

ＰＭＳ、4ヵ村自治会の合同祝賀会。カチャラ村取水口にて。「これほど立派とは思わなかった」とは村民の弁で、苦労した側としては、お世辞でも嬉しいものだ。ちょうどパキスタンからの送還難民ラッシュが重なり、悲鳴を上げかけていたところだった。灌漑農地の拡大だけでなく、この状態では雇用も魅力だ。現在、同地区から150名が作業･警備員として加わっている。ＰＭＳでは、緊急作業が減った現在、重機を減らしてもなるべく人海戦術をとる予定。2017年1月29日

各村代表がお礼を述べる。アフガニスタン東部には都市と農村と、まるで異なる二つの世界がある。この地域は、遊牧民とも関係が深く、昔風の保守的なアフガン農村社会である。2017 年 1 月 29 日

今冬最大の関心だった取水堰。上流部。もう見飽きたかもしれませんが、これが一応の完成形です。2017 年 1 月 29 日

同下流部。2017 年 1 月 29 日

取水門と砂吐き。水位は 78 ㎝、砂吐きの機能が増水期以後の観察の要点。降雨の影響は数センチの増加にとどまり、かなり安定した水位が期待される。
2017 年 1 月 29 日

取水門の現在。カチャラ用水路 I が分水路として加わっている。2017 年 1 月 29 日

カチャラ I は沈砂池を経ないため、分水路床をやや高めにとり、スリット状の壁を築いて排砂を促す。2017 年 1 月 30 日

真冬なのに豊富な水量は村民を喜ばせた。あとは水を流しながら、上部の施工をしていく。2017 年 1 月 30 日

カチャラ用水路Ｉ　は工事期間中見えなかったこともあって、皆心配していた。「もし水が少なかったら･･･」現場で働く他村の者にとって、住民の反応はやはり圧力なのだ。豊富な水量を見て、喜びひとしお。2017 年 1 月 30 日

これが全部畑になる。沈砂池下流部とカチャラ第二分水路。流域はかなり広い。現在、新農地の面積を測量中。2017 年 1 月 29 日